

JA全農ウィークリー

4
|
5
面

全農グレイン(株) 輸出エレベーター稼働40周年

強固な集荷・輸送・輸出の物流一貫体制で飼料を安定供給（畜産生産部）

2面

J A全農くみあい飼料ホールディングス(株)が誕生
飼料会社の経営統合に向けて持ち株会社を設立(畜産生産部)



就任したJA全農くみあい飼料ホールディングスの
守江寛社長(左から2人目)と菅野幸雄会長(2面)



目録を渡した長崎県本部の木下満夫副本部長(左)と福岡ソフトバンクホークスの新井仁営業本部長(2面)



全農グレインの穀物輸出施設(4-5面)

2 「JA全農なごみシート」で 県産農畜産物をPR(長崎県本部)

3 2棟目の米穀倉庫「あだたら美米蔵」竣工 (福島県本部)

松本山雅FCホームゲームで
「JA全農長野デー」(長野県本部)

6 トップランナーインタビュー TUMMY株式会社 代表取締役・CEO 阿部成美さん(広報・調査部)

7 JAズームイン(JA長崎せいひ・長崎)

8 「マスカット・オブ・アレキサンドリア」で食育授業(岡山県本部)

たまひよとの共同企画で子育て世代に
食の意識付け(広報・調査部)

JAタウンショップ紹介
JF佐賀げんかい 大漁鮮華

**Web版JA全農ウィークリーは
こちらから ▶▶▶▶▶▶▶▶**



<https://www.zennoh-weekly.jp/>

**Web
限定**

JAグループ群馬収穫感謝祭2022
(群馬県本部)

JA Innovator's BootCamp
最終発表会を開催(経営企画部)

News!



JA全農くみあい飼料ホールディングス(株)が誕生

飼料会社の経営統合に向けて持ち株会社を設立

畜産生産部



代表取締役就任した守江寛社長(中央)と、取締役就任した(右から)北日本の浦田克博社長、東日本の小林茂雄社長、西日本の神野正二社長、北九州の谷清司社長

全農は10月3日、飼料製造・販売子会社のJA全農北日本くみあい飼料(株)、JA東日本くみあい飼料(株)、JA西日本くみあい飼料(株)、ジェイエイ北九州くみあい飼料(株)(以下4社)を完全子会社とする持ち株会社、JA全農くみあい飼料ホールディングス(株)を設立しました。

持ち株会社は4社の統合作業を進め、3年以内に持ち株会社を含めた5社の合併を目指します。合併により事業運営の効率化や製造技

術・営業ノウハウの共有化、畜産専門人材の育成を行い、地域ごとに強化してきた飼料会社の機能をさらに高度化し、JA各組織との連携により生産者の事業支援に取り組めます。

合併後は全農子会社の中でも最大級の従業員を抱える組織となることから、代表取締役に就任した守江寛社長は「会社を支える社員一人一人が、統合してできる新会社の設立目的を十分理解して、名実ともに日本一の飼料会社の社員として高い職業意識をもって働くことができるような職場・環境づくりを目指し、できるだけ早く合併できるように統合検討を進めたい」と決意を表明しました。

合併後は全農子会社の中でも最大級の従業員を抱える組織となることから、代表取締役に就任した守江寛社長は「会社を支える社員一人一人が、統合してできる新会社の設立目的を十分理解して、名実ともに日本一の飼料会社の社員として高い職業意識をもって働くことができるような職場・環境づくりを目指し、できるだけ早く合併できるように統合検討を進めたい」と決意を表明しました。

News!



「JA全農なごみシート」で県産農畜産物をPR

福岡PayPayドームでJA全農ながさきフェア

長崎県本部

長崎県本部は9月3、4日、福岡PayPayドームの「JA全農なごみシート」で「JA全農ながさきフェア」を開催しました。

JA全農なごみシートは2009年に全農がネーミングライツを取得した観戦シートで、ビュッフェ形式でゆったりと食事を楽しみながら野球観戦ができます。

長崎県産農畜産物を実際に味わっていただき、おいしさや魅力を知ってもらおうと、2日間限定で「長崎和牛ローストビーフ」と、生産量

日本一を誇る長崎県の特産品のビワをぜいたくに丸ごと1個使用した「まるごとびわゼリー」を提供しました。

また、来場者には「ストリートみかんジュース」とJAタウン「もぐもぐながさき」のリーフレットを配布。長崎和牛ローストビーフを食べて「おいしい」と話した方がリーフレットの二次元コードから長崎和牛をその場で購入するなど、好評のうちに終了しました。

フェアに合わせて9月3日、福岡ソフトバンクホークスへ長崎和牛29キを贈呈し、木下満夫副本部長が福岡ソフトバンクホークス(株)事業統括本部営業本部の新井仁本部長に目録を手渡しました。贈呈した長崎和牛は9月23、25日の最終戦に選手サロンで提供されました。



目録を渡した木下副本部長(左)と新井本部長



2棟目の米穀倉庫「あだたら美米蔵」竣工

全農一貫パレチゼーションシステムを全面導入

福島県本部



福島県本宮市に完成した「あだたら美米蔵」

福島県本部は、中通り広域連合集出荷施設「あだたら美米蔵」を県本部に位置する本宮市のJAふくしま未来安達地区本部の敷地内に建設し、9月8日に竣工式を行いました。県本部が運営する2棟目の米穀倉庫となります。

施設は、鉄骨造り平屋建て、庫内面積3700平方メートル、最大9000トンの米を収容できる低温倉庫です。県内には築40年以上経過した農業倉庫が多く、深刻化する収容力不足の解消と将来的に増加が見込まれる担い手からのフレキシブルコンテナによる出荷への対応を

目的として整備しました。

運用面では、入出庫・保管管理の業務をJAふくしま未来へ委託し、出来秋は同管内の集荷拠点として、年明け以降は県内各地からの集約拠点として活用します。また、物流合理化の取り組みとして全農一貫パレチゼーションシステムを全面導入します。

竣工式には、施工業者である株式会社建の菅家洋一代表取締役、農業団体からは福島県本部の菅野啓二運営委員会会長、数又清市副会長、全農の山田浩幹常務ら関係者52人が出席しました。菅野会長はあいさつで「全農は、JAとの連携をより一層強化して米集荷量の確保と保管費用の削減に努め、生産者手取り向上に貢献していく」と意気込みを語りました。



松本山雅FCホームゲームで「JA全農長野デー」

県産農畜産物と事業をPR、サッカークリニックも共催

長野県本部



ハーフタイムに県産農畜産物をPRしながらピッチを歩く信州ポークのキャラクター「リッキー」と職員

長野県本部は9月25日、J3松本山雅FCのホームゲームでスポンサーデー「JA全農長野デー」を開催しました。県産農畜産物や事業を紹介するブースを出展し、地元テレビ局と共催のサッカークリニックを実施しました。

ブースでは、長野県で生産される花5品目の中からトルコギキョウを当てる「花の名前当てクイズ」や、きのこセットを1000人にプレゼントする「ウエルカムきのこ」、ECサイト「らく

JAのお届け便」のPR、県産農畜産物を使ったお弁当

「One Soui全縁スタミナ丼」の販売を行いました。NBS長野放送と共催したサッカークリニックは元日本代表の中澤佑二さんをゲストに迎え、小学4年生から6年生60人が参加しました。また、クリニック前には中澤さんに県産ブドウの「クイーンルージュ」「ナガノパープル」「シャインマスカット」を贈呈し、「クイーンルージュ」を試食していただきました。

同イベントは昨年までの3年間を除き、松本山雅FCのスポンサーとなった2010年から毎年開催しています。県本部ではスポーツを通して食の魅力と大切さを発信し、県産農畜産物の消費拡大につなげたいと考えています。

※「クイーンルージュ」は長野県の登録商標です。

輸出エレベーター稼働40周年

全農グレイン(株)

強固な集荷・輸送・輸出の物流一貫体制で 飼料原料を安定供給

全農グレイン(株)は米国における全農グループの穀物輸出基地として、1979年に設立されました。82年に輸出エレベーターが完成し、同年9月18日、コープグレインII号への船積みが始まりました。それから40年を記念し、9月22日に記念式典が開かれました。

【畜産生産部】

米国の穀物を日本の農家まで 飼料原料の物流一貫体制を確立

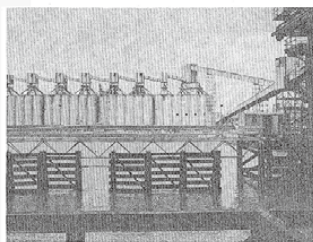
飼料は海外で生産された穀物を中心に製造されています。全農はかつて米国の農協連合や穀物メジャーから飼料原料を調達していましたが、飼料穀物を安定的に確保・供給するため1979年に米国最大の穀物輸出港であるルイジアナ州ニューオーリンズに全農グレインを設立し、82年には穀物の輸

出船積み施設が稼働しました。

また、自ら穀物集荷機能を担うべく、88年にCGBエンタープライズを買収。日本の生協などの消費者ニーズに対応した飼料穀物を生産・集荷・輸出することのできる、独自のIPハンドリング(分別管理)システムを実現させました。さらに、米国西海岸における飼料原料や牧草などの粗飼料の購買業

務、コンテナの手配、輸出手続き、決済業務などを行う目的で2005年、オレゴン州にポートランド支店を設立。子会社である全農ヘイ(株)、関連会社であるCZL(株)の取り扱い分を含め粗飼料および麦類を西海岸から輸出しており、日本向け原料供給網の拠点として安全で安心な飼料原料などの供給に貢献しています。

初の船積み開始 エレベーター本操業



飼料安定供給担う

「ニューオーリンズ」のアメリカン・ナショナル・リバー・フロントに位置する全農グレイン(株)の輸出エレベーター本操業が、18日(現地時間)に正式に開始された。同施設は、全農グループが米国最大の穀物輸出港であるルイジアナ州ニューオーリンズに、1979年に設立した。同施設は、全農グループが米国最大の穀物輸出港であるルイジアナ州ニューオーリンズに、1979年に設立した。同施設は、全農グループが米国最大の穀物輸出港であるルイジアナ州ニューオーリンズに、1979年に設立した。

全農グレイン(株)は、米国最大の穀物輸出港であるルイジアナ州ニューオーリンズに、1979年に設立した。同施設は、全農グループが米国最大の穀物輸出港であるルイジアナ州ニューオーリンズに、1979年に設立した。同施設は、全農グループが米国最大の穀物輸出港であるルイジアナ州ニューオーリンズに、1979年に設立した。

(1982年9月21日付、日本農業新聞)

初船積みの日本農業新聞記事



全農グレインの穀物輸出施設

カナダ、ブラジルに子会社や 関連会社設立、産地を多元化

全農グレインと豪州の穀物集荷販売会社・グレインコープ社の共同出資で2015年に設立されたグレインズコネクト・カナダ・オペレーションズ(GCC社)の穀物エレベーター(集荷施設)が19年に完成し、カナダ産大麦、小麦、ナタネの集荷体制が整いました。20年には輸出港バンクーバーにGCC社が合併で設立した船積み施設(FGT社)が完成するなど、カナダ産飼料穀物のサプライチェーンを



GCC内陸集荷施設

確立しています。

また、世界有数の穀物(トウモロコシ・大豆)輸出国であるブラジルで、飼料穀物のサプライチェーンの構築とさらなる安定供給を図るため、15年に全農グレインブラジルホールディングス(有)を設立。17年には穀物集荷・輸出会社であるALZ社に資本参加し、アジア向けを中心とした穀物供給に貢献しています。

内陸産地から輸出港まで サプライチェーンを強化

18年に穀物輸出エレベーターの拡張工事を終え、年間船積み能力を拡大しました。また、21年にバンゲ・リミテッド社の子会社バンゲ・ノース・アメリカ社から米国の内陸穀物集荷施設26基を取得して拠点を120カ所超に増強、米国内での穀物集荷力を強化しています。米国における内陸産地から輸出港までのサプライチェーンの強化により、配合飼料原料のさらなる安定供給に取り組んでいます。

コンベント輸出エレベーター

稼働から40年祝い記念式典

ニューオーリンズ港コンベントの

全農グレイン輸出エレベーターで9

月22日、記念式典が開かれ、菅野幸雄経営管理委員会会長や自治体関係者、全農グレインOBや業界関係者らが出席しました。菅野会長は「競合他社との厳しい競争や、天候や災害リスクなど、厳しい事業環境の中、今日の隆盛を迎えることができたのは、全農グレイン職員のたゆまぬ貢献とCGBとの連携、そして地元の皆様のご支援の賜物」と感謝を伝えるとともに、「全農グレインは船積み能力拡張工事を18年に終え、21年度には過去最高となる年間1850万トンの船積み記録を記録しました。今後もこの能力を遺憾なく発揮し、さらにはコーポレートメッセージである『セッティング・ザ・



あいさつする菅野会長

スタンダード(最適な事業運営・会社経営)』を体現して安定的な操業を続けてほしい」とお祝いの言葉を述べました。

全農グレインは設立以来、内陸集荷基盤強化や輸出エレベーターの増強を図り、世界最大の船積み能力を有する施設として、強固な集荷・輸送・輸出の物流一貫体制を構築しています。畜産農家の経営を支えるためにも、引き続き、飼料の安定供給に取り組めます。

全農グレイン年表

1979年	全農グレイン設立
1982年	穀物エレベーター稼働、船積み開始
1988年	CGBエンタープライズを買収
2005年	ポートランド支店を設立
2014年	全農グレインの輸出能力とCGB社の集荷基盤の拡充
2015年	豪州・グレインコープ社と共同出資でGCC社設立
2015年	全農グレインブラジルHD(有)設立
2018年	船積み能力拡張
2021年	米国の内陸集荷施設26基を取得

畑にすでにある魅力を伝え、 作り手の愛ごといただく「愛食」文化を広めたい

畑のそばのブランディングカンパニー TUMMY株式会社 代表取締役／CEO 阿部成美さん

「愛食文化を創造する」をテーマに、畑に特化したブランディングを展開するTUMMY(株)の阿部成美さんに、事業内容や新しく始めたフードカタログギフト「aiyueyo gift」についてお話を聞きました。

【広報・調査部】

—— 起業のきっかけは？

大学は農学部に進み、食の仕組みについて学びました。学生の視点で規格外の野菜にかわいさを感じ、そのことを伝える活動をしていたら農業に接点のなかった学生たちにも広がっていくのを見て、「畑はもう十分に魅力をもっているから、それを伝えていける人」

なろう」という夢を持ちました。それが起業につながっています。

—— 事業内容について教えてください。

2019年1月にTUMMY(株)を設立しました。主な事業内容は、すでに畑にあるいいものを発掘していくブランディング事業、それを発信していくメディア事業、そして今年9月にスタートしたフードカタログギフト事業の三つで、「フードカタログギフト aiyueyo」というブランドで展開しています。今の、農畜産物が広くみんなに行き渡る状態というのは本当に素晴らしいことだと思っていますが、その裏側で農家さんが例えば自分自身をかけた農畜産物への愛



フードカタログギフトで提供する商品



フードカタログギフト「aiyueyo gift」

—— 新たな取り組みを 始められましたね。

私たちが感じている課題の解

が伝えきれなくてやりがいが出下していたりとか、所得面で農産物がなかなか高く売れないことで苦戦していたりとか、食べ手側も食事が栄養摂取のために偏ってしまい食べる喜びが少なくなっているということも気になっていて、そういった課題に向き合っています。

決策として、食への愛を感じられるフードシステムをつくっていかないと考え、その一環としてフードカタログギフト「aiyueyo gift」を立ち上げました。「愛ごとめしあがれ」をキャッチコピーに、作り手が愛をこめて育てた農畜産物を通じて、自分の言葉では伝えにくい感謝の気持ちを大切な人に届けていくツールとして使ってもらえればと思っています。カタログではただ商品を紹介する

のではなく、生産者の思いを背景ごと紹介することにこだわっていて、読み物としても楽しめます。また、商品は洗うだけ、焼くだけ、温めるだけで、手間なく食べられることもポイントです。

—— 今後の目標は？

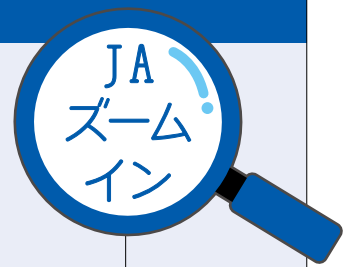
今回のカタログは今までブランディングをお手伝いしてきた14軒の生産者さんと作りました。まずはこの一冊をしっかりと届けるとともに、今後は紹介していきたい生産者さんも増やしていけたらと考えています。作り手の愛ごといただく食体験「愛食」文化を、さらに広めていきたいと思っています。

愛を贈る
フードカタログギフト
「aiyueyo gift」は
こちら



茨城県を代表するブランド豚「ロースポーク」のブランディングも手掛ける阿部成美さん





農業所得向上と産地維持拡大

労力軽減や担い手対策も強化

JA長崎せいひは長崎、西海、諫早（二部）と時津、長与の3市2町で、西彼杵半島から長崎半島までを占める広域JAです。長崎県産の大半を占めるミカンと全国1位の生産量を誇るビワや良食味のイチゴが有名です。ほかに

も畜産、アスパラガスやトマト、花き類など、多種多様な農業を展開しています。

「地域の食材で地域を元気に」をテーマに

2022年2月に、地域を元気にしようとし長崎市元船町に新しい形態の店舗「AGRI+」がオープンしました。県内産の野菜や果物などをそろえたアンテナショップ、

金融や共済などの相談ができる相談窓口、人気のカフェ「Attic coffee & dining」とコラボしたカフェスペースが一体となっており、期間限定でデコポンやスイカのスムージーなど、地域の食材を使ったメニューを提供しています。

スマート選果システムで味・品質の確保にも期待

長崎ビワは、大玉で良食味の「なつたより」の生産に力を入れています。

20年5月に「プロジェクトションマップング」技術を取り入れたスマート選果システムを導入しました。従来の選果は、見た目重視の選別が手作業で行われており、味や品質の面で課題がありました。今回

JA長崎せいひ（長崎県）



概要

2022年3月31日現在

正組合員数	8525人
准組合員数	2万962人
職員数	602人
販売品取扱高	110億円
購買品取扱高	52億3千万円
貯金残高	1573億4千万円
長期共済保有高	5614億3千万円
主な農産物	温州ミカン、ビワ、イチゴ、牛、豚



2月にオープンした新しい形態の店舗「AGRI+」



全国1位の生産量を誇るビワの収穫



ビワ出荷に威力を発揮するスマート選果システム



皇室に献上もされる大玉ビワ「なつたより」

品質の確保も期待されています。

JAは今後も、生産農家の農業所得向上と産地の生産維持拡大に向け、基幹品目を中心に生産基盤の整備や労力軽減対策を継続的に取り組みます。併せて、担い手農家の確保と育成対策を強化し、持続可能な強い産地づくりを目指します。

「マスカット・オブ・アレキサンドリア」で食育授業

岡山市立西大寺小学校 給食で全校児童・教職員に提供

岡山県本部は9月9日、岡山県中央卸売市場青果物消費拡大推進委員会と岡山市立西大寺小学校で3年生88人を対象に「マスカット・オブ・アレキサンドリア」についての食育授業を開催しました。県内の生産者が栽培方法の講義などを行いました。

【岡山県本部】

県内の生産者を講師として招き、マスカットの栽培について講義を実施。クイズなどを交え、子どもたちに楽しく地元の特産品マスカットについて学んでもらいました。

その日の給食では全校児童と教職員539人に2粒ずつ提供し、生産者が丹精込めて作ったマスカットの香り高い味を

堪能してもらいました。

岡山県本部は、岡山県ならではの温暖で日照時間が長く雨が少ない気候と生産者の惜しみない努力と洗練された技術によって作られた伝統の味を、子どもたちに伝え後世に残していくために、今後も食育授業に積極的に取り組みます。



「マスカット・オブ・アレキサンドリア」について教えた食育授業

たまひよとの共同企画で子育て世代に食の意識付け 「赤ちゃんのおかゆ」向けにJAタウンの新米や野菜も紹介

全農は10月17日、ベネッセコーポレーションのたまひよ編集部との共同企画「#赤ちゃん初めのひと口 みんなで旬を味わおう」を始動しました。特設サイトを開設し、インスタグラムでの写真投稿キャンペーンを実施。また、たまひよ編集部が提携しているインスタグラマーと、新米をはじめとした旬の味覚をPRします。

【広報・調査部】

「これから離乳食を始める赤ちゃんのおかゆ」をテーマに、JAタウンで販売しているキャラクター米袋を中心とした新米や、離乳食として活用する果物、鉄分補給を補う野菜などを特設サイトで紹介しています。期間限定でお得に

購入できるクーポンも配布しています。

また、ツイッター「全農広報部 食農応援」や「JAタウン」で随時、情報を発信し、特産品が当たるプレゼントキャンペーンなども実施します。企画は12月12日まで。

10月17日
オープン!
特設サイトは
こちら



「#赤ちゃん初めのひと口」の特設サイト



JF佐賀げんかい 大漁鮮華

一本釣りした佐賀県の呼子産の剣先イカを、魚本来の「うまみ・香り・みずみずしさ」を保ったまま瞬間凍結してお届けします。お刺身用にカット済みなので流水解凍後、すぐにお召し上がりいただけます。胴体には甘みがあり、エンペラと足はコリコリ食感。軟骨にはイカみそたっぷり目と口以外はずべて食べられます。

お刺身のあとは天ぷら、炙り焼きやバター焼き、煮付けもお薦めです。



CAS凍結呼子剣先いか姿造り Mサイズ
……2310円(税込み)

ご注文は
こちらから



▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>
▶ お問い合わせは shop@ja-town1.com

